

Q2

リスクがある投資は
ギャンブルと同じではないの？

このように切り返そう

「投資とギャンブルは一見すると似ているようですが、別ものです。投資は、例えば投資された会社が成長して企業価値がアップすることで、その会社に投資した人すべてが儲かる可能性があります。実際、米国企業は長期的に成長を続け米国株の市場規模は増大していますよね。そのため米国株式に投資している方は多くが利益を上げることができています」

「一方で、ギャンブルは運任せです。参加した人たちが支払った一定の金額を奪い合う仕組みで、誰かの儲けは、誰かの損失になります。さらに例えばギャンブルには胴元がいて、その胴元の取り分が大きいことから、損失を出す可能性がより高いのです」

まずは、トーク例のように

株式市場の短期的な値動きなどの印象から「投資はギャンブルと同じ」と誤解しているお客様も多い。この場合、

長期的視点で
考えてもらおう

投資とギャンブルは別ものであることをしっかり説明しよう。ポイント「増えていく（富を分け合う）」のか、「一定である（富を奪い合う）」のかという違いだ。

加えて、トーク例にもあるように、米国株式市場など長期的に成長している市場のデータを見せることで、利益の元となる資産が増えていくこと（皆が儲かること）を伝え、関心を高めてもらいたい。

POINT

富を分け合うのが投資、富を奪い合うのがギャンブルと説明を

長期的視点で見てもらいギャンブルとの違いを理解してもらおう。

もちろん、長期的に見たとしてもすべての資産市場の価値が増大するとは限らないので、投資対象を選択する「目利き」は必要だ。

そこで投資信託の紹介が有効となる。運用のプロが長期的に成長する可能性の高い対象を目利きしてくれる（富が増大し、皆で儲けることができる）という投資信託ならではのメリットも併せてアピールし、資産運用に踏み出してもらう。

お客様からギャンブルとの違いは何かと聞かれたら、それは逆にチャンスであると捉えて、アプローチにつなげていこう。

お客様の納得が成約の秘訣！

即答しづらい質問への
上手な切り返し話法

投資信託の提案時に聞かれる、回答しづらい質問を6つ挙げ、切り返しトークを紹介する。

藤原久敏 1級FP技能士／CFP®

Q1

無理に運用しなくても
預金で十分ですよね？

このように切り返そう

「希望されるライフプランを実現できるだけの十分な資産があれば、確かに無理に運用される必要はないかもしれませんが。ただ『いまは大丈夫』でも、将来、病気やケガで収入が途絶えたり、急激なイン

フレなど不測の事態が起こったりしたとき、希望されるライフプランを実現できるほどの十分な資産は準備されていますか」

お客様に「十分な資産」があれば、運用しなくても預金で十分かもしれない。ただ十分な資産とは、生涯にわたってお客様の希望するライフプランを実現できるだけの資産であるはずだ。病気やケガ、失業やインフレといった不測の事態にも対応できるだけの、十分な資産でなければならぬことを、冒頭のトーク例のように切り返して認識してもらおう。

希望のライフプランを
確認していただく

この切り返しトークの後に改めて現状の収支・資産、そして希望するライフプランを確認（シミュレーション）し

たい。そうすることで、先行き不透明なこの時代、不測の事態まで完全にカバーできるだけの資産形成は厳しいとしても、資産は増やしておきたいという意識を持ってもらえる可能性が高まる。

資産形成の方法としては、「収入を増やす」「支出を減らす」が考えられるが、今の時代、両方とも思うようにはいかない。お客様自身もそのことを十分に理解しているだろう。

そこで「資産を運用して増やす」という選択肢を提案することで、運用の必要性について受け入れてもらいやすくなる。資産形成を達成するためには、預金だけでは不十分であることにも納得してもらえはるはずだ。

POINT

不測の事態にも対応できるだけの資産を持つているか確認を促そう